二つの六面石幢

―「回転六体地蔵」と「六体回り地蔵」―

回転六体地蔵（河内）

六体回り地蔵（富東谷）

昔の街道沿いの村境や峠などには、お地蔵様の石造物をみかけることがあります。お地蔵様は一体のみ立てられている所もありますが、六体並んでいる所もあります。これは仏教の教え「六道輪廻」に基づくもので、人間が足を踏み入れる六つの世界（地獄・餓鬼・修羅・畜生・人間・天上）のすべてに救いの手をさしのべるのがお地蔵様（地蔵菩薩）と考えられているからです。

この六体のお地蔵様を一つの石に彫り込んだものもあります。六角柱の石の側面に一体ずつお地蔵様を彫り込んだもので、こうした形の石造物は「六面石幢」といわれます。六面石幢は日本では鎌倉時代頃から作られはじめ、室町・江戸時代にかけて作られ続けたようで、町内でもいくつかみることができます。

町内にある六面石幢のうちで最も有名なものが河内と富東谷にあり、河内にあるものは「回転六体地蔵」、富東谷にあるものは「六体回り地蔵」という名前で呼ばれ、それぞれ旧町村の頃から指定文化財として保護されています。この二基の石造物は、六角柱の石柱の底に芯があり、手で回すと回転させることができるという変わった特徴があります。

回転六体地蔵は、元は黒木の六万河原付近の畦にあり、苫田ダムでこのあたりが水没することから、元の位置が見渡せる「水の郷奥津湖」へ移転しています。六体のお地蔵様の下には、「寛延二己巳天六月吉日」の年号と、「坂手徳右衛門」「坂手伊兵衛」の名前が刻まれており、この二人が施主として寛延二年（一七四九）に製作・設置されたと考えられます。

六体回り地蔵は、恵堂の境内にあります。こちらには「寛延二己巳天九月日」、「父母為菩提也」「山崎久□」の銘文が刻まれていることから、山崎さんという方の両親の供養のために製作・設置されたことがわかります。製作年は同じですが、回転六体地蔵の方が三ヶ月早く製作されています。

両者を比較すると、いずれも一番上に屋根のような形をした笠があり、その下にお地蔵様を彫刻した六角柱、そしてその下には芯でつながった台座という三つのパーツでできています。回転六体地蔵の台座は自然石で、六体回り地蔵は台座用に若干加工された石を用いていることと、笠の形状が六体回り地蔵の方は、端部がやや上がったような形になっている所が目に見える大きな相違点といえます。

また、後世に作られた言い伝えと思われますが、六体回り地蔵は回転させると雨が降るといわれています。回転六体地蔵にまつわるこうした言い伝えなどは残されていません。

これらは製作年代、大きさ、構造等から同じ石工によって制作されたものと考えられます。

ただ、このような構造の六面石幢はこの近辺には他にありませんので、美作地方の石工ではなく、石工の多い近畿地方かあるいは別の地方の石工が出稼ぎなどで依頼を受け、製作されたものでしょうか。当時のこの地方では画期的な石造物であったことが想像できます。

くるくると回転することで、世界をあまねく見渡し、救いの手をさしのべてもらいたいという、お地蔵様への信仰心の篤さが感じられます。

参考「石仏と石塔」（山川出版社）、「奥津町の石造物」、「富村の石造物」、「鏡野町の文化財」

奥津歴史資料館
ミニ企画展開催中

奥津歴史資料館では、現在ミニ企画展として、昭和32年から平成8年まで奥津温泉で芸者として活躍された「〆竜（しめりゅう）さん」に関するパネル展示を開催しています。

これは〆竜さんと親交のあった町内の皆さんのご協力の下で、現在も山口県下関市で元気に暮らしている〆竜さんこと小田節子さんから、当時の思い出や奥津温泉での活躍の様子などを聞き取り、まとめたものです。

〆竜さんの活躍を通じて、奥津温泉の最も華やかであった時代を感じてみてください。

「―奥津温泉を彩る女性― 〆竜さん一代記」

・場　　所：奥津歴史資料館（月曜・祝日の翌日は休館）
（☎0868-52-0888）
・開館時間：9時～16時30分
・会　　期：12月末まで
・問い合わせ：生涯学習課（☎0868-54-7733）
担当 日下

2010年9月号　第67号　毎月1日発行

〒708-0421 岡山県苫田郡鏡野町井坂495 鏡野町情報広報課 TEL0868-52-2111
【鏡野町のホームページアドレス】http://www.town.kagamino.lg.jp/